

【高等学校】

- ◎ 数学的な見方・考え方を働かせ、本質を明らかにするなどの数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- ① 数学における基本的な概念や原理・法則などを体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり表現・処理したりする技能を身に付ける。
 - ② 事象を数学を活用して論理的に考察する力、思考の過程を振り返って本質を明らかにし統合的・発展的に考察する力や、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
 - ③ 数学のよさを認識し、数学を活用して粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断したり、問題解決の過程を振り返って評価・改善したりする態度を養う。
- 学習内容を生活と関連付けたり、生徒の疑問を取り上げたりするなど生徒の数学学習に対する関心や意欲を高める活動を充実する。
 - 学習の過程を振り返り、本質を明らかにしたり学習内容を整理し直したりして、自ら見いだした問題を解決する活動を充実する。

【中学校】

- ◎ 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- ① 数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり表現・処理したりする技能を身に付ける。
 - ② 事象を数学を活用して論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力や、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
 - ③ 数学のよさを実感し、数学を活用して粘り強く考え、生活や学習に生かしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善したりする態度を養う。
- 問題解決に必要な情報を生徒自らが集めたり選択したり、帰納的に考えることなどから自らきまりを見付けたり、見いだしたきまりを既習の内容を生かして演繹的に説明したりする活動を充実する。
 - 既習の内容を振り返って関連を図ったり、新たに学んだ内容を用いると、どのようなことができるようになったのかなどについて明らかにしたりする活動を充実する。

【小学校】

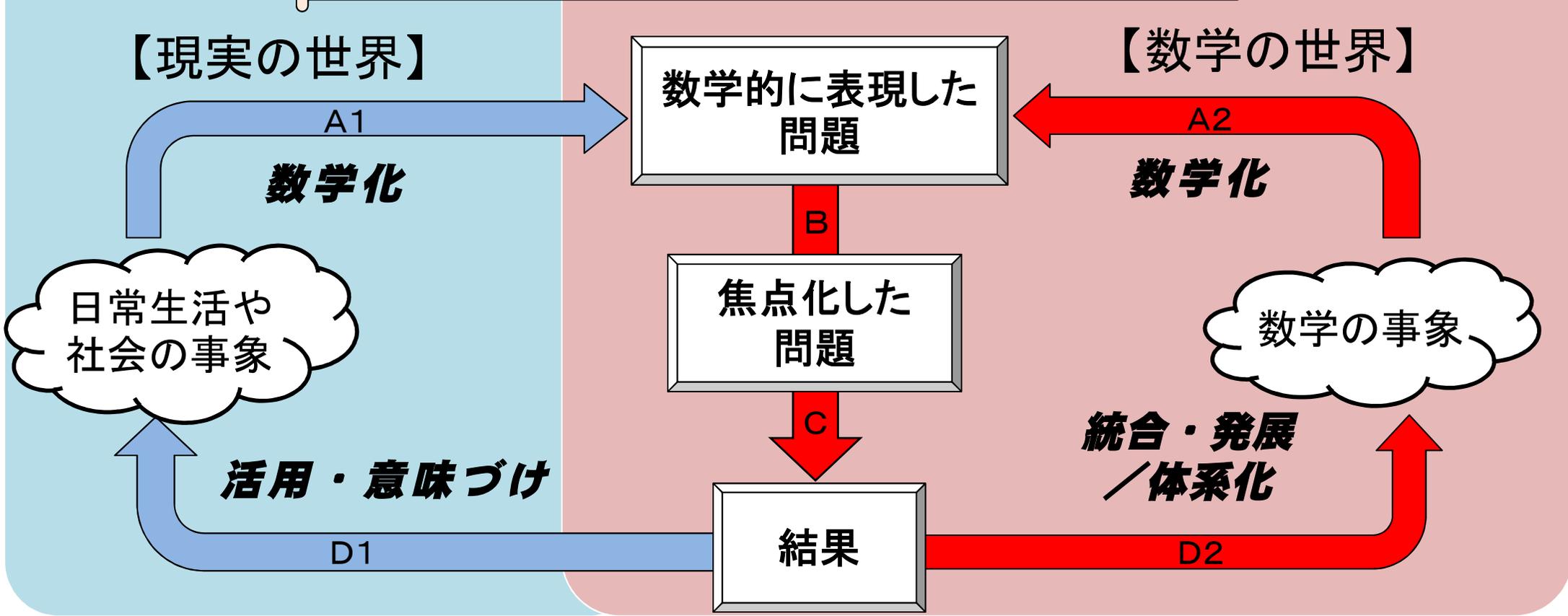
- ◎ 数学的な見方・考え方を働かせ、算数の学習を生活や学習に活用するなどの数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- ① 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に表現・処理する技能を身に付ける。
 - ② 日常の事象を数理的にとらえ見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見いだし統合的・発展的に考察する力や、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり柔軟に表したりする力を養う。
 - ③ 数学のよさに気付き、算数の学習を生活や学習に活用したり、学習を振り返ってよりよく問題解決したりする態度を養う。
- 事象を数理的に考察したり、自分の考えを数学的に表現し処理したりする活動を充実する。
 - 具体物、図、数、式、表、グラフ相互の関連を図り、問題解決する活動を充実する。
 - 友達の考えから学び合ったり、学習の過程と成果を振り返り、よりよく問題解決できたことを実感したりする活動を充実する。

【幼児教育】(※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿のうち、特に関係のあるもの記述)

・身近な事象に積極的に関わり、物の性質や仕組み等を感じ取ったり気付いたりする中で、思い巡らし予想したり、工夫したりなど多様な関わりを楽しむようになるとともに、友達などの様々な考えに触れる中で、自ら判断しようとして考え直したりなどして、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

・遊びや生活の中で、数量などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、必要感からこれらを活用することを通して、数量・図形、文字等への関心・感覚が一層高まるようになる。

算数・数学の問題発見・解決の過程



日常生活や社会の事象を数理的に捉え、
数学的に処理し、問題を解決することができる。

数学の事象について統合的・発展的に考え、
問題を解決することができる。

事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決することができる。

- ※各場面で、言語活動を充実
- ※これらの過程は、自立的に、時に協働的に行い、それぞれに主体的に取り組めるようにする。
- ※それぞれの過程を振り返り、評価・改善することができるようにする。

算数・数学の学習過程のイメージ

算数・数学における問題発見・解決の過程と育成を目指す資質・能力

事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決することができる。

日常生活や社会の事象を数理的に捉え、
数学的に処理し、問題を解決することができる。

数学の事象について統合的・発展的に考え、
問題を解決することができる。

- A1 日常生活や社会の問題を数理的に捉えることについて
- 事象の数量等に着目して数学的な問題を見いだす力
 - 事象の特徴を捉えて数学的な表現を用いて表現する力(事象を数学化する力)

数学的に表現した問題

- A2 数学の事象における問題を数学的に捉えることについて
- 数学の事象から問題を見いだす力
 - 事象の特徴を捉え、数学化する力
 - 得られた結果を基に拡張・一般化する力

- B 数学を活用した問題解決に向けて、構想・見通しを立てることについて
- 数学的な問題の本質を見いだす力(洞察力)
 - 数学的な問題を解決するための見通しを立てる力(構想力)

数学の事象

日常生活や
社会の事象

焦点化した問題

- D1 解決過程を振り返り、得られた結果を意味づけたり、活用したりすることについて
- 得られた結果を元の事象に戻してその意味を考える力
 - 様々な事象に活用する力

- C 焦点化した問題を解決することについて
- 目的に応じて数・式、図、表、グラフなどを活用し、一定の手順にしたがって数学的に処理する力
 - 数学的な見方・考え方を基に、的確かつ能率的に処理する力
 - 論理的に推論する力(帰納、類推、演繹)

- D2 解決過程を振り返るなどして概念を形成したり、体系化したりすることについて
- 数学的な見方・考え方のよさを見いだす力
 - 得られた結果を基に批判的に検討し、体系的に組み立てていく力
 - 見いだした事柄を既習の知識と結びつけ、概念を広げたり深めたりする力
 - 統合的・発展的に考える力

結果

※これらの力は必ずしもこの位置のみに位置づくわけではない

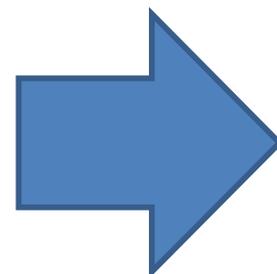
- E 数学的な表現を用いて、人々と交流し合うことについて
- 数学的な表現を用いた説明を理解したり評価したりする力
 - 目的に応じて、自分の考えなどを数学的な表現を用いて説明する力

- F 学習に向かう力、態度について
- 過程や結果を吟味し、評価・改善する態度
 - 多面的に考え、粘り強く問題の発見や解決に取り組む態度

高等学校数学科

現行科目

数学Ⅰ（必履修）
 数学Ⅱ
 数学Ⅲ
 数学A
 数学B
 数学活用



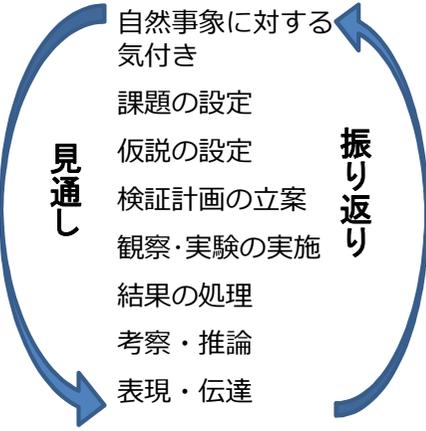
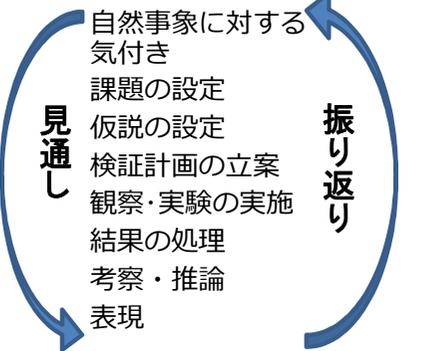
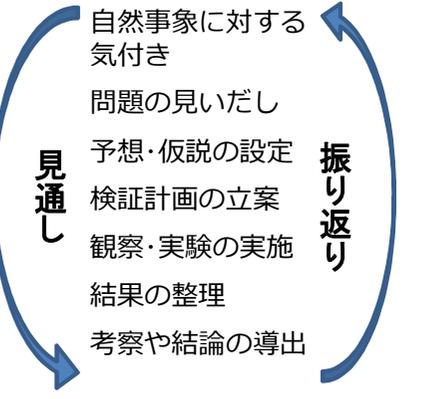
改訂後

数学Ⅰ（必履修）
 数学Ⅱ
 数学Ⅲ
 数学A
 数学B
数学C（新設）

理数探究（新設）
理数探究基礎（新設）

※高等学校理数科として位置づけられる。

- 理数探究、理数探究基礎の新設に伴い数学活用を廃止。
- 数学Cを新たに設けて、数学活用の内容を数学A、数学B、数学Cに移行。
- 数学Cは、「データの活用」その他の内容で構成。
- 統計的な内容については、特に情報科などとの連携を重視。

理科	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等	資質・能力の育成のために重視すべき学習過程等の例
<p>高等学校</p>	<p><選択科目></p> <ul style="list-style-type: none"> ●知識・技能の深化 ●自然事象に対する概念や原理・法則の体系的な理解 	<ul style="list-style-type: none"> ●科学的な探究能力（論理的・分析的・統合的に考察する力） ●新たなものを創造しようとする力 	<ul style="list-style-type: none"> ●果敢に挑戦する態度 ●科学的に探究する態度 ●科学に対する倫理的な態度 	
	<p><必履修科目></p> <ul style="list-style-type: none"> ●自然事象に対する概念や原理・法則の理解 ●科学的探究についての理解 ●探究のために必要な観察・実験等の技能 	<ul style="list-style-type: none"> ●自然事象の中から見通しをもって課題や仮説を設定する力 ●観察・実験し、得られた結果を分析して解釈するなど、科学的に探究する力と科学的な根拠を基に考えを表現する力 ●仮説の妥当性や改善策を検討する力 	<ul style="list-style-type: none"> ●自然事象に対する畏敬の念 ●諦めずに挑戦する態度 ●日常生活との関連，科学の必要性や有用性の認識 ●科学的根拠に基づき，多面的，総合的に判断する態度 ●中学校で身に付けた探究する能力などを活用しようとする態度 	
<p>中学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○自然事象に対する概念や原理・法則の基本的な理解 ○科学的探究についての基本的な理解 ○探究のために必要な観察・実験等の基本的な技能（安全への配慮，器具などの操作，測定の方法，データの記録・処理等） 	<ul style="list-style-type: none"> ○自然事象の中に問題を見いだして見通しをもって課題や仮説を設定する力 ○計画を立て，観察・実験する力 ○得られた結果を分析して解釈するなど，科学的に探究する力と科学的な根拠を基に表現する力 ○探究の過程における妥当性を検討するなど総合的に振り返る力 	<ul style="list-style-type: none"> ○自然を敬い，自然事象に進んでかかわる態度 ○粘り強く挑戦する態度 ○日常生活との関連，科学することの面白さや有用性の気付き ○科学的根拠に基づき判断する態度 ○小学校で身に付けた問題解決の力などを活用しようとする態度 	
<p>小学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■自然事象に対する基本的な概念や性質・規則性の理解 ■理科を学ぶ意義の理解 ■科学的に問題解決を行うために必要な観察・実験等の基本的な技能（安全への配慮，器具などの操作，測定の方法，データの記録等） 	<p>（各学年で主に育てたい力）</p> <p>6年：自然事象の変化や働きについてその要因や規則性，関係を多面的に分析し考察して，より妥当な考えをつくり出す力</p> <p>5年：予想や仮説などをもとに質的变化や量的変化，時間的变化に着目して解決の方法を発想する力</p> <p>4年：見いだした問題について既習事項や生活経験をもとに根拠のある予想や仮説を発想する力</p> <p>3年：自然事象の差異点や共通点に気付き問題を見いだす力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■自然に親しみ、生命を尊重する態度 ■失敗してもくじけずに挑戦する態度 ■科学することの面白さ ■根拠に基づき判断する態度 ■問題解決の過程に関してその妥当性を検討する態度 ■知識・技能を実際の自然事象や日常生活などに適用する態度 ■多面的，総合的な視点から自分の考えを改善する態度 	

理科における教育のイメージ

【高等学校】

◀発展: explore science▶ (Especially Science for Interested students: 世界をリードする人材として)

- 科学的課題に徹底的に向き合い、考え抜いて行動する態度を養う。科学的な探究能力を活用して、専門的な知識と技能の深化・統合化を図るとともに、自発的・創造的な力を養う。
- 科学的な探究能力の育成を主体的に図ることができる「課題研究」を充実させる。 (理数科, 理数探究)

◀応用: advanced science▶ (Science for Interested students: 科学技術立国としての日本を支える人材として)

- 自然の事物・現象について、科学的に探究する能力と態度を養うとともに、論理的な思考力や創造性の基礎を養う。
- 「観察・実験」や「探究活動」を一層充実させて、科学的な探究能力の育成を図る。また、日常生活や他教科(数学, 情報, 保健体育, 地理など)との関連を図る。

◀基礎: basic science▶ (Science for All students: 善良な市民として)

- ◎ 理科の見方・考え方を働かせて、見通しをもって課題や仮説を設定し、観察・実験などを行い、根拠に基づく結論を導き出す過程を通して、事象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- ①自然の事物・現象に対する概念や原理・法則の理解と科学的探究についての理解や、探究のために必要な観察・実験等の技能を養う。
- ②見通しをもって観察・実験などを行い、科学的に探究したり、科学的な根拠を基に表現したりする力を養う。
- ③自然に対する畏敬の念を持ち、科学の必要性や有用性を認識するとともに、科学的根拠に基づき、多面的・総合的に判断する態度を養う。
- 「観察・実験」や「探究活動」を充実させることにより、科学的な探究の過程を通じて、中学校で身に付けた資質・能力をさらに高める。観察・実験が扱えない場合も、論理的に検討を行うなど、探究の過程を経ることが重要である。また、日常生活や他教科(数学, 情報, 保健体育, 地理など)との関連を図る。

【中学校】

- ◎ 理科の見方・考え方を働かせて、問題を見だし、見通しをもって課題や仮説を設定し、観察・実験などを行い、根拠に基づく結論を導き出す過程を通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- ①自然の事物・現象に対する概念や原理・法則の基本的な理解と科学的探究についての基本的な理解や観察・実験等の基本的な技能を養う。
- ②見通しをもって観察・実験などを行い、科学的に探究したり、科学的な根拠を基に表現したりする力を養う。
- ③自然を敬い、自然の事物・現象に進んでかかわり、科学することの面白さや有用性に気付くとともに、科学的根拠に基づき判断する態度を養う。
- 小学校で身に付けた、問題解決の能力をさらに高め、自然事象の把握、課題の設定、予想・仮説の設定、検証計画の立案、観察・実験の実施、結果の処理、考察・推論、表現等の学習活動を充実する。また、日常生活や他教科との関連を図る。例えば、1年: 自然の事物・現象に進んでかかわり、その中から問題を見いだす。2年: 解決方法を立案して実行し、結果の妥当性を検討する。3年: 探究の過程を振り返り、その妥当性を検討する。

【小学校】

- ◎ 理科の見方・考え方を働かせて、自然にかかわり、問題を見だし、見通しをもって観察・実験などを行い、より妥当な考えを導き出す過程を通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- ①自然の事物・現象に対する基本的な概念や性質・規則性の理解を図り、観察・実験等の基本的な技能を養う。
- ②見通しをもって観察・実験などを行い、問題を解決する力を養う。
- ③自然を大切に、学んだことを日常生活などに生かそうとともに、根拠に基づき判断する態度を養う。
- 観察・実験の結果を整理し考察し表現する学習活動を充実する。また、日常生活や他教科との関連を図る。
- 問題解決の能力、例えば、3年: 差異点や共通点に気付き問題を見いだす力、4年: 既習事項や生活経験を基に根拠のある予想や仮説を発想する力、5年: 質的变化や量的変化、時間的变化に着目して解決の方法を発想する力、6年: 要因や規則性、関係を多面的に分析して考察し、より妥当な考えをつくりだす力を育成する学習活動を充実する。
- 目的を設定し、計測して制御するという考え方の学習活動を充実する。

(小学校低学年)

例えば、【生活科】

- 自然とのかかわりに関心をもち、自然を大切にしたり、その不思議さに気付いたりすることができる。
- 身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりなどして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに関心を持ち、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできる。
- 身近にある自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫して作り、その面白さや自然の不思議さに気付く、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。
- 動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気付く、生きものへの親しみをもち、大切にすることができるようにする。

【幼児教育】(※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿のうち、特に関係のあるもの記述)

- ・身近な事象に積極的に関わり、物の性質や仕組み等を感じ取ったり気付いたりする中で、思い巡らし予想したり、工夫したりなど多様な関わりを楽しむようになるとともに、友達などの様々な考えに触れる中で、自ら判断しようとして考え直したりなどして、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。
- ・自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、身近な事象への関心が育ちつつ、好奇心や探究心を持って思い巡らし言葉などで表しながら、自然への愛情や畏敬の念を持つようになる。身近な動植物を命あるものとして心を動かし、親しみをもち、大切にすることを大切にするようになる。

理科の各領域における特徴的な見方

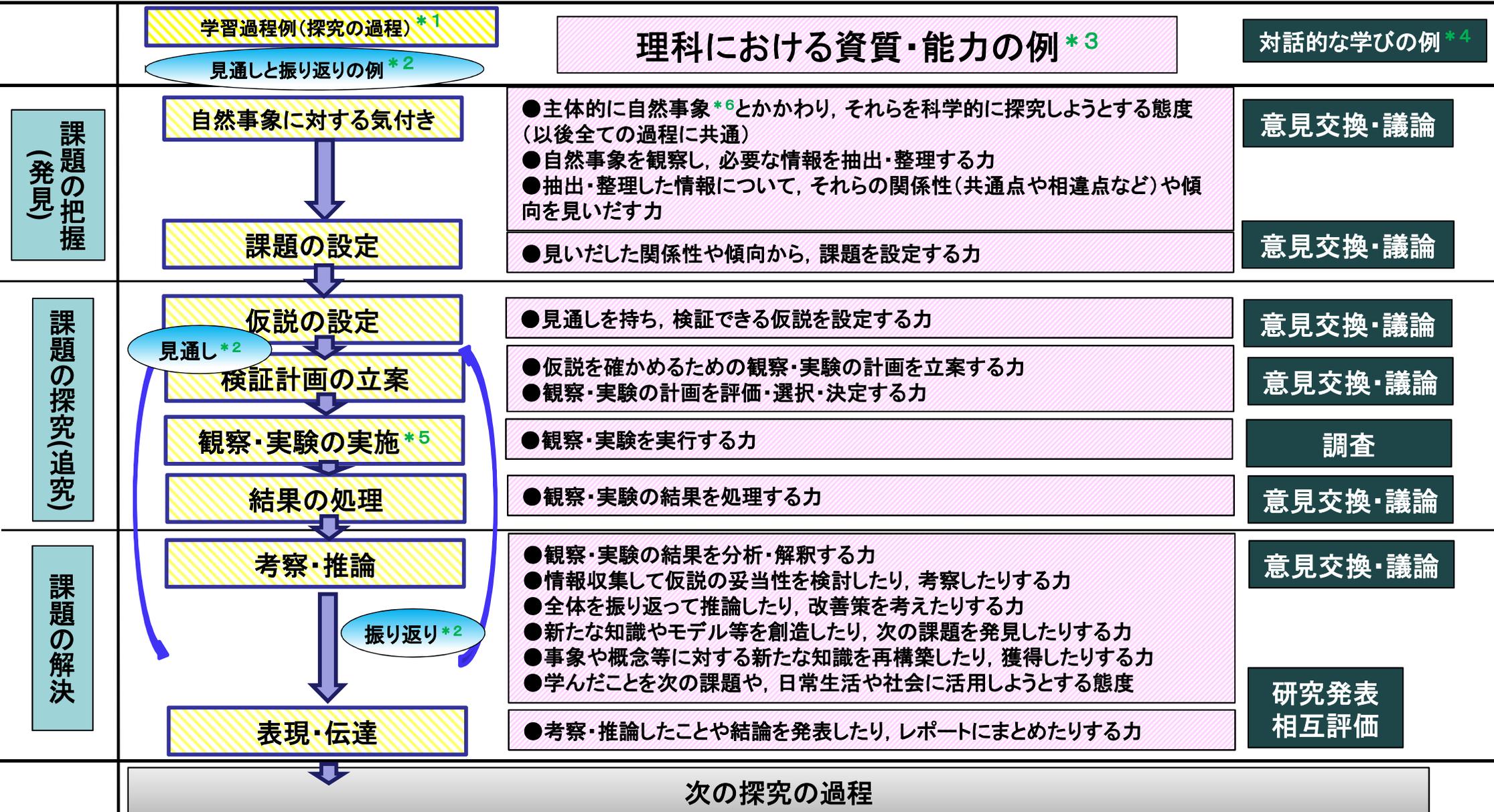
別添 5 - 3

表1 理科の各領域における特徴的な見方

	領 域			
	エネルギー	粒 子	生 命	地 球
見方・考え方	自然の事物・現象を主として <u>量的・関係的な視点</u> で捉える * 高等学校では、事象をより包括的・高次的に捉える	自然の事物・現象を主として <u>質的・実体的な視点</u> で捉える * 中学校から実体はあるが見えない（不可視）レベルの原子、分子レベルで事象を捉える * 高等学校では、事象をより包括的・高次的に捉える	生命に関する自然の事物・現象を主として <u>多様性と共通性の視点</u> で捉える * 「分子～細胞～個体～生態系レベル」の階層性があり、小・中・高と上がるにつれて扱う階層が広がる	地球や宇宙に関する自然の事物・現象を主として <u>時間的・空間的な視点</u> で捉える * 「身のまわり～地球～宇宙レベル」の階層性があり、小・中・高と上がるにつれて扱う階層が広がる
	学校段階の違い（内容の階層性の広がり）			
小学校	「見える（可視）レベル」	「物レベル」	「個体～生態系レベル」	「身のまわり（見える）レベル」
中学校	「見える（可視）～見えない（不可視）レベル」	「物～物質レベル」	「細胞～個体～生態系レベル」	「身のまわり（見える）～地球（地球周辺）レベル」
高等学校	「見える（可視）～見えない（不可視）レベル」	「物質レベル」（マクロとミクロの視点）	「分子～細胞～個体～生態系レベル」	「身のまわり（見える）～地球（地球周辺）～宇宙レベル」

表2 理科の各領域における特徴的な見方の整理例

	領 域			
	エネルギー	粒 子	生 命	地 球
見方	自然の事物・現象を主として量的・関係的な視点で捉える	自然の事物・現象を主として質的・実体的な視点で捉える	生命に関する自然の事物・現象を主として多様性と共通性の視点で捉える	地球や宇宙に関する自然の事物・現象を主として時間的・空間的な視点で捉える
小学校 【事象を分節化しない】	自然の事物・現象を「見える（可視）レベル」において、主として量的・関係的な視点で捉える	自然の事物・現象を「物レベル」において、主として質的・実体的な視点で捉える	生命に関する自然の事物・現象を「個体～生態系レベル」において、主として多様性と共通性の視点で捉える	地球や宇宙に関する自然の事物・現象を「身のまわり（見える）レベル」において、主として時間的・空間的な視点で捉える
	例：豆電球の明るさについて、電池の数（量）や直列・並列つなぎの関係で捉える	例：物の性質について、形が変わっても重さは変わらないことから実体として存在することを捉える	例：昆虫や植物の成長や体のつくりについて、多様性と共通性の視点で捉える	例：土地のつくりや変化について、侵食・運搬・堆積の関係を時間的・空間的な視点で捉える
中学校 【事象を主に再現性が高いもの（エネルギー、粒子）と、主に再現性が低いもの（生命、地球）に分節化する】	自然の事物・現象を「見える（可視）レベル～見えない（不可視レベル）」において、主として量的・関係的な視点で捉える	自然の事物・現象を「物～物質レベル」において、主として質的・実体的な視点で捉える	生命に関する自然の事物・現象を「細胞～個体～生態系レベル」において、主として多様性と共通性の視点で捉える	地球や宇宙に関する自然の事物・現象を「身のまわり（見える）～地球（地球周辺）レベル」において、主として時間的・空間的な視点で捉える
	例：電気に関する現象について、電流、電圧、抵抗（量）の関係をオームの法則の関係で捉える	例：物質やその変化について、原子や分子を化学変化で実体的に捉える	例：植物や動物の体のつくりと働きについて、多様性と共通性の視点で捉える	例：地層の重なりについて、時間的・空間的な視点で捉える
高等学校 【事象をエネルギー、粒子、生命、地球に分節化する】	自然の事物・現象を「見える（可視）レベル～見えない（不可視レベル）」において、主として量的・関係的な視点で捉えるとともに、より包括的・高次的に捉える	自然の事物・現象を「物質レベル」において、主として質的・実体的な視点で捉えるとともに、より包括的・高次的に捉える	生命に関する自然の事物・現象を「分子～細胞～個体～生態系レベル」において、主として多様性と共通性の視点で捉える	地球や宇宙に関する自然の事物・現象を「身のまわり（見える）～地球（地球周辺）～宇宙レベル」において、主として時間的・空間的な視点で捉える
	例：電気抵抗に関する現象について、物質の違いから包括的・高次的に捉える	例：物質の構成粒子について、原子の構造や電子配置から包括的・高次的に捉える	例：生物と遺伝子について、多様性と共通性の視点で捉える	例：プレートの運動や火山活動と地震について、時間的・空間的な視点で捉える



*1 探究の過程は、必ずしも一方向の流れではない。また、授業では、その過程の一部を扱ってもよい。
 *2 「見通し」と「振り返り」は、学習過程全体を通してのみならず、必要に応じて、それぞれの学習過程で行うことも重要である。
 *3 全ての学習過程において、今までに身に付けた資質・能力や既習の知識・技能を活用する力が求められる。
 *4 意見交換や議論の際には、あらかじめ個人で考えることが重要である。また、他者とのかかわりの中で自分の考えをより妥当なものにする力が求められる。
 *5 単元内容や題材の関係で観察・実験が扱えない場合も、調査して論理的に検討を行うなど、探究の過程を経ることが重要である。
 *6 自然事象には、日常生活に見られる事象も含まれる。
 *7 小学校及び中学校においても、基本的には高等学校の例と同様の流れで学習過程を捉えることが必要である。

※以下の2科目で構成

実施段階 「理数探究」

探究を深める段階

- 基礎で身に付けた資質・能力を活用して自ら課題を設定し、探究の過程全体を行う。
- それぞれの課題に応じた探究を行うために必要な個別の知識や技能を主体的に身に付けさせ、より深い探究を志向させる。
- 探究に当たっては、質を高めるため大学・企業等の外部機関を積極的に活用する。
- 実験や分析自体の成否より、試行錯誤し、失敗のリスクも引き受けながら主体的にやり遂げる過程を重視する。

大学・企業等からの支援

基礎で学んだことを用いて、自ら課題を設定し、探究の過程全体を実施する。

校内・校外において探究の成果を発表する。

学習過程の例

探究の手法について学ぶ

教員の指導のもと、実験・観察の進め方や分析の手法を考え、選択した課題等の探究を実施する

研究倫理についての基本的な理解のための学習

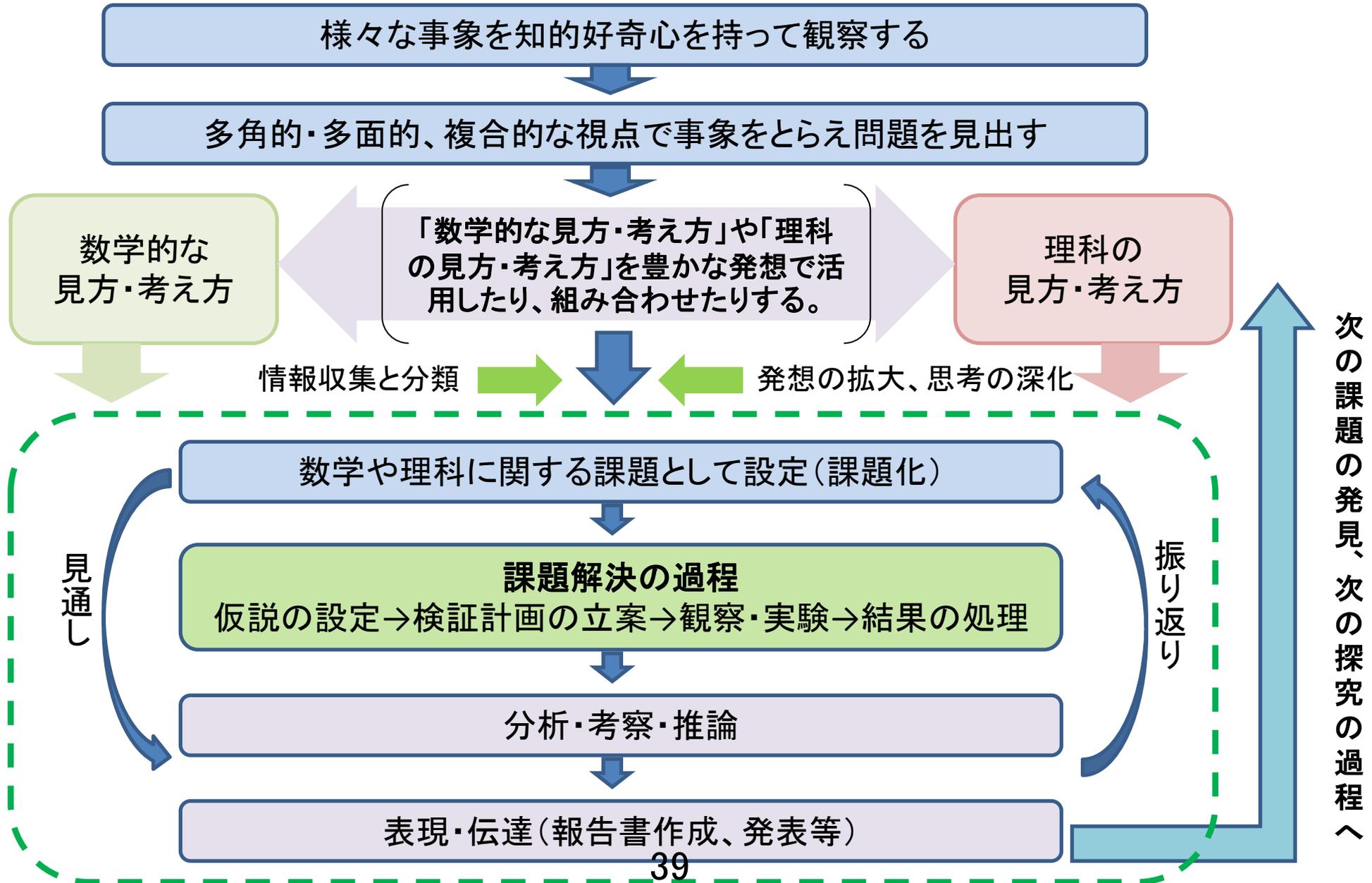
校内等で成果を発表する

基礎の習得段階

- 探究の過程全体を自ら遂行するために基礎となる資質・能力をあらかじめ身に付けておくことが必要。
- 新たな価値の創造に向けて挑戦することの意義等について理解を深めさせることで、主体的に探究に取り組む態度を身に付けさせることが必要。
- 研究倫理等についての基本的な理解を身に付けさせることが必要。

基礎段階 「理数探究基礎」

高等学校の数学・理科にわたる探究的科目 の学習過程(探究の過程)のイメージ



目指す生徒のイメージ

- 探究の過程全体を自ら遂行できる能力を身に付けるとともに、自らの探究の過程をメタ認知できる生徒。

進路先のイメージ

- 高等学校卒業後に、大学・大学院等に進学し、主として数学や理科の分野における研究に向けた学習や研究を継続する意思を有する生徒。

※ カリキュラムの設定に際してのイメージであり、学校や生徒の状況に応じて、科目を開設し、履修を認めることを制限するものではない。

※ 特に分野を限定することなく、探究的な学習等を行うものとして「総合的な学習の時間」が設定されていることにも留意。

	視点	学習対象	知識・技能の基礎 (生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気付いたり、何がわかったり、何ができるようになるのか)	思考力・判断力・表現力等の基礎 (生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなどを使って、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか)	学びに向かう力・人間性等 (どのような心情、意欲、態度などを育み、よりよい生活を営むか)
生活 小学校	【自分と人や社会とのかわり】 健康で安全な生活、身近な人々との接し方、地域への愛着、公共の意識とマナー、生産と消費、情報と交流(ア～カ)	①学校の施設 ②学校で働く人 ③友達 ④通学路 ⑤家族	■具体的な活動や体験を通して獲得する、社会事象に関する個別的な気付き ■具体的な活動や体験を通して形成する、社会事象に関する関係的な気付き	■身体を通して関わり、対象に直接働きかける力 ■比較したり、分類したり、関連付けたり、視点を変えたりして対象を捉える力	■身近な人々や地域に関わり、集団や社会の一員として適切に行動しようとする態度
	【自分と自然とのかわり】 身近な自然との触れ合い、時間と季節、遊びの工夫(キ～ケ)	⑥家庭 ⑦地域で生活したり働いたりしている人 ⑧公共物 ⑨公共施設 ⑩地域の行事・出来事	■具体的な活動や体験を通して獲得する、自然事象に関する個別的な気付き ■具体的な活動や体験を通して形成する、自然事象に関する関係的な気付き	■違いに気付いたり、よさを生かしたりして他者と関わり合う ■試したり、見立てたり、予測したり、見通しを持ったりして創り出す力	■身近な自然と関わり、自然を大切にしたり、遊びや生活を豊かにしたりしようとする態度
	【自分自身】 成長への喜び、基本的な生活習慣や生活技能(コ、サ)	⑪身近な自然 ⑫身近にある物 ⑬動物 ⑭植物 ⑮自分のこと	■具体的な活動や体験を通して獲得する、自分自身に関する個別的な気付き ■具体的な活動や体験を通して形成する、自分自身に関する関係的な気付き ■具体的な活動や体験を通して身に付ける習慣や技能	■伝えたり、交流したり、振り返ったりして表現する力	■自分のよさや可能性を生かして、意欲と自信をもって生活しようとする態度

学 生 精
習 活 神
上 上 的
の の な
自 自 自
立 立 立

小学校
中学年

教科等の特質に応じた
「見方・考え方」や
資質・能力を育むとともに、
教科横断的にそれらを
総合・統合していく学び

小学校
低学年

生活科を中心としたスタートカリキュラムの中で、
合科的・関連的な指導も含め、
子供の生活の流れの中で、
幼児期の終わりまでに育った姿が
発揮できるような工夫を行いながら、
短時間学習なども含めた工夫を行うこと
により、
幼児期に総合的に育まれた
「見方・考え方」や資質・能力を、
徐々に各教科等の特質に応じた学
びにつなげていく時期

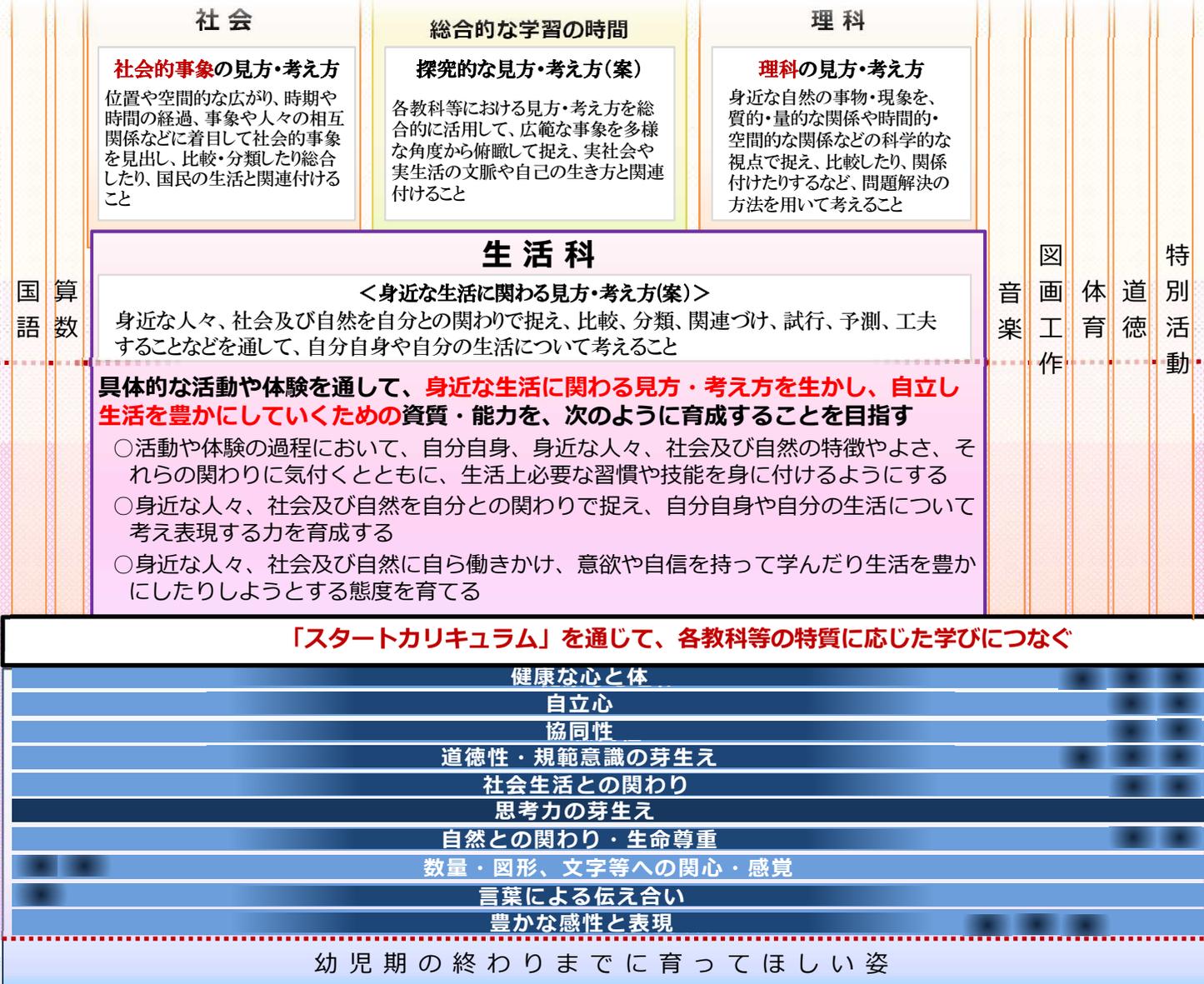
接続

幼児期の終わりまでに育ってほしい
姿を手がかりとしながら、
幼児の得意なところや更に伸ばしたいところを
見極め、それらに応じた関わりをしたり、
より自立的・協同的な活動を促
したりするなど、
意図的・計画的な
環境の構成に基づいた総合的な
指導の中で、
バランスよく「見方・
考え方」や資質・能力を育む時期

幼児
教育

遊びや生活の中で、
幼児期の特性に応じた
「見方・考え方」や
資質・能力を育む学び

<未就園段階： 家庭や地域での生活>



※各教科等の「見方・考え方」を踏まえて、関係性を示したものである。また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の項目の濃淡は、小学校教育との関連が分かるように示したものであり、基本的にはすべての教科に関わっているが、濃い部分は特に意識的につながりを考えていくことが求められるもの。幼児教育において小学校教育を前倒して行うことを意図したものではない。

生活科の「見方・考え方」(身近な生活に関する見方・考え方)

身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、
比較、分類、関連づけ、試行、予測、工夫することなどを通して、自分自身や自分の生活について考えること

思いや願いをもつ

活動や体験をする

表現する・行為する

感じる・考える

- 対象に関心を持つ
- 身体全体で対象と関わる
- 自ら対象に働きかける

- 比較したり、分類したり、関連付けたり、視点を変えたりして対象を捉える
- 違いに気付いたり、よさを生かしたりして他者と関わり合う
- 試したり、見立てたり、予測したり、見通しを持ったりして創り出す

- 伝えたり、交流したり、振り返ったりして表現する
- 生活に生かしたり、生活を豊かにしたりする

探究心 他者尊重 地域への愛着 適切な関わり 公共 安全 (主に人や社会との関わり)

好奇心 自然との触れ合い 感性 生命尊重 創造 (主に自然との関わり)

意欲 自信 成長 自分らしさ 感謝 (主に自分自身)

人、社会、自然に対する個別的な気付き
(例: 学校生活を支えている人々がいること、季節によって生活の様子が変わるなど)

人、社会・自然に対する関係的な気付き
(例: 空間の中でつながり関わっていること、きまりや一定の変化があること など)

自分自身への気付き
(例: 自分自身が成長したこと、役割が増えたこと など)

具体的な活動や体験を通して身に付ける習慣や技能(例: 生活のリズム・病気の予防・ルール・マナー、道具を使って物を作る・動植物の世話がができる など)

思考力・判断力・表現力等

学びに向かう力・人間性等

知識・技能

資質・能力の3本柱 : **知識・技能の基礎** (生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気付いたり、何がわかったり、何ができるようになるのか)
思考力・判断力・表現力等の基礎 (生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなどを使って、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか)
学びに向かう力・人間性等 (どのような心情、意欲、態度などを育み、よりよい生活を営むか)

生活科の3つの視点 : 自分と人や社会とのかかわり(●)、自分と自然とのかかわり(■)、自分自身(◆)

生活科の内容項目(平成20年3月告示)

(1)	学校の施設の様子及び先生など学校生活を支えている人々や友達のことが分かり(●), 楽しく安心して遊びや生活ができる(●)ようにするとともに, <u>通学路の様子やその安全を守っている人々など</u> に関心をもち(●), 安全な登下校ができるようにする(●)。
(2)	家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどについて考え(●), 自分の役割を積極的に果たすとともに(◆), 規則正しく健康に気を付けて生活することができるようにする(◆)。
(3)	自分たちの生活は <u>地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所と</u> かかわっていることが分かり(●), それらに親しみや愛着をもち(●), 人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする(◆)。
(4)	公共物や公共施設を利用し(●), 身の回りにはみんなで使うものがあることやそれを支えている人々がいることなどが分かり(●), それらを大切に, 安全に気を付けて正しく利用することができるようにする(●)。
(5)	身近な自然を観察したり(■), 季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりなどして(●), 四季の変化や季節によって生活の様子が変わること ^に 気付く(■), 自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできるようにする。
(6)	身近な自然を利用したり, 身近にある物を使ったりなどして, 遊びや遊びに使う物を工夫してつくり(■), その面白さや自然の不思議さに気付く(■), みんなで遊びを楽しむことができるようにする(●)。
(7)	動物を飼ったり植物を育てたりして(■), それらの育つ場所, 変化や成長の様子に関心をもち(■), また, それらは生命をもっていることや成長していること ^に 気付く(■), 生き物への親しみをもち, 大切にすることができるようにする(■)。
(8)	自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い(●), 身近な人々とかかわることの楽しさが分かり(●・◆), 進んで交流することができるようにする(●)。
(9)	自分自身の成長を振り返り, 多くの人々の支えにより自分が大きくなったこと, 自分でできるようになったこと, 役割が増えたことなどが分かり(◆), これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつとともに, これからの成長への願いをもって, 意欲的に生活することができるようにする(◆)。

※下線は学習対象

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
高等学校 芸術 (音楽)	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わり及び表現方法、音楽様式、伝承方法の多様性などの音楽文化について理解することや、<u>音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽表現上の働きと関わらせて理解すること</u>など ・個性を生かした音楽表現を創意工夫したり、表現意図を音楽で表現したりするための技能を身に付けること <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感性を働かせ、<u>音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、知識や技能を得たり活用したりして音楽表現を創意工夫し、楽曲の背景などに関わらせながら表現意図を創造すること</u>など ・感性を働かせ、<u>音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、知識を得たり活用したりして音楽を自分なりに解釈したり、音楽と生活及び社会などの関連から音楽を捉えたり、自分や社会にとっての価値を考えたりし、よさや美しさを味わい、音楽の意味や価値を創造すること</u>など 	<ul style="list-style-type: none"> ・音や音楽のよさや美しさなどの質的な世界を価値あるものとして感じ取る感性 ・協働して音楽活動する喜びの自覚 ・芸術としての音楽の学習に主体的に取り組む態度 ・生涯にわたり音楽を愛好する心情 ・よりよい音環境を求める態度 ・音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにする態度 ・我が国及び諸外国の音楽文化を尊重する態度 ・美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心としての情操 <p>など</p>
高等学校 音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽に関する専門的な知識及び音楽表現の技能 <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感性を働かせ、音楽を分析的かつ総合的に捉え、根拠をもって解釈し、明確な表現意図をもったり、音楽作品や演奏などについて批評する能力を高めたりして、音楽の社会的・文化的な意味や価値から芸術文化の発展について考え、創造すること <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音や音楽のよさや美しさなどの質的な世界を価値あるものとして感じ取る感性 ・音楽の専門的な学習に主体的に取り組む態度 ・音楽文化の発展と創造に寄与する態度 ・美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心としての情操 <p>など</p>

音楽科、芸術科（音楽）において育成を目指す資質・能力の整理

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
中学校 音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や背景との関わり及び音楽の多様性などの音楽文化について理解することや、<u>音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解すること</u> など ・自分なりに音楽表現を創意工夫したり、思いや意図を音楽で表現したりするための技能を身に付けること など 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽に対する感性を働かせ、<u>音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、知識や技能を得たり活用したりして、音楽表現を創意工夫し、どのように表すかについて思いや意図を生み出すこと</u> など ・音楽に対する感性を働かせ、<u>音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、知識を得たり活用したりして、音楽を自分なりに解釈したり、音楽と人々の暮らしなどとの関連から音楽を捉えたり、自分にとっての価値を考えたりし、よさや美しさを味わい、音楽の意味や価値を生み出すこと</u> など 	<ul style="list-style-type: none"> ・音や音楽のよさや美しさなどの質的な世界を価値あるものとして感じ取る感性 ・協働して音楽活動する喜びの自覚 ・音楽の学習に主体的に取り組む態度 ・音楽を愛好する心情 ・音環境への関心 ・音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度 ・我が国の音楽文化への愛着や、諸外国の様々な音楽に関わる態度 ・美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心としての情操 など

音楽科、芸術科（音楽）において育成を目指す資質・能力の整理

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
小学校 音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造との関わりについての理解、<u>音符、休符、記号や音楽に関わる用語の意味や働きについて音楽活動を通した理解</u> など ・自分で音楽表現をしたり友達と一緒に音楽表現をしたり、自分の思いや意図を音楽で表現したりするための技能 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽に対する感性を働かせ、<u>音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、知識や技能を得たり活用したりして、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図を見いだす力</u> など ・音楽に対する感性を働かせ、<u>音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどの感じ取りながら、知識を得たり活用したりして、楽曲や演奏のよさなどを考え味わい、自分にとっての音楽のよさなどを見いだす力</u> など 	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム感、旋律感など音楽の特性を感じ取る感性 ・協働して音楽活動する喜びの実感 ・音楽の学習に主体的に取り組む態度 ・音楽を愛好する心情 ・生活の中の様々な音や音楽への気付き ・音楽経験を生活に生かし、生活を明るく潤いのあるものにする態度 ・我が国や諸外国の音楽に親しみ、それらを大切にする態度 ・美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心としての情操 など

下線部は、現行の学習指導要領で示している（共通事項）と関連する箇所

【高等学校】芸術科（音楽）

音楽的な見方・考え方を働かせて、音楽の幅広い活動を通して、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わり及び音楽文化の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

音楽表現を創意工夫したり、音楽を価値判断しながらよさや美しさを深く味わって聴いたりする力を育てる。

音楽活動の喜びを味わい、我が国及び諸外国の様々な音楽と幅広く関わり、生涯にわたり音楽を愛好する心情をはぐくむとともに、感性を高め、芸術としての音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにする態度を養う。

【中学校】音楽科

音楽的な見方・考え方を働かせて、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

曲想と音楽の構造や背景との関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

音楽表現を創意工夫したり、音楽を自分なりに価値判断しながらよさや美しさを味わって聴いたりする力を育てる。

音楽活動の楽しさを味わい、音楽を愛好する心情をはぐくむとともに、音楽に対する感性を豊かにし、豊かな情操を養う。

【小学校】音楽科

音楽的な見方・考え方を働かせて、表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

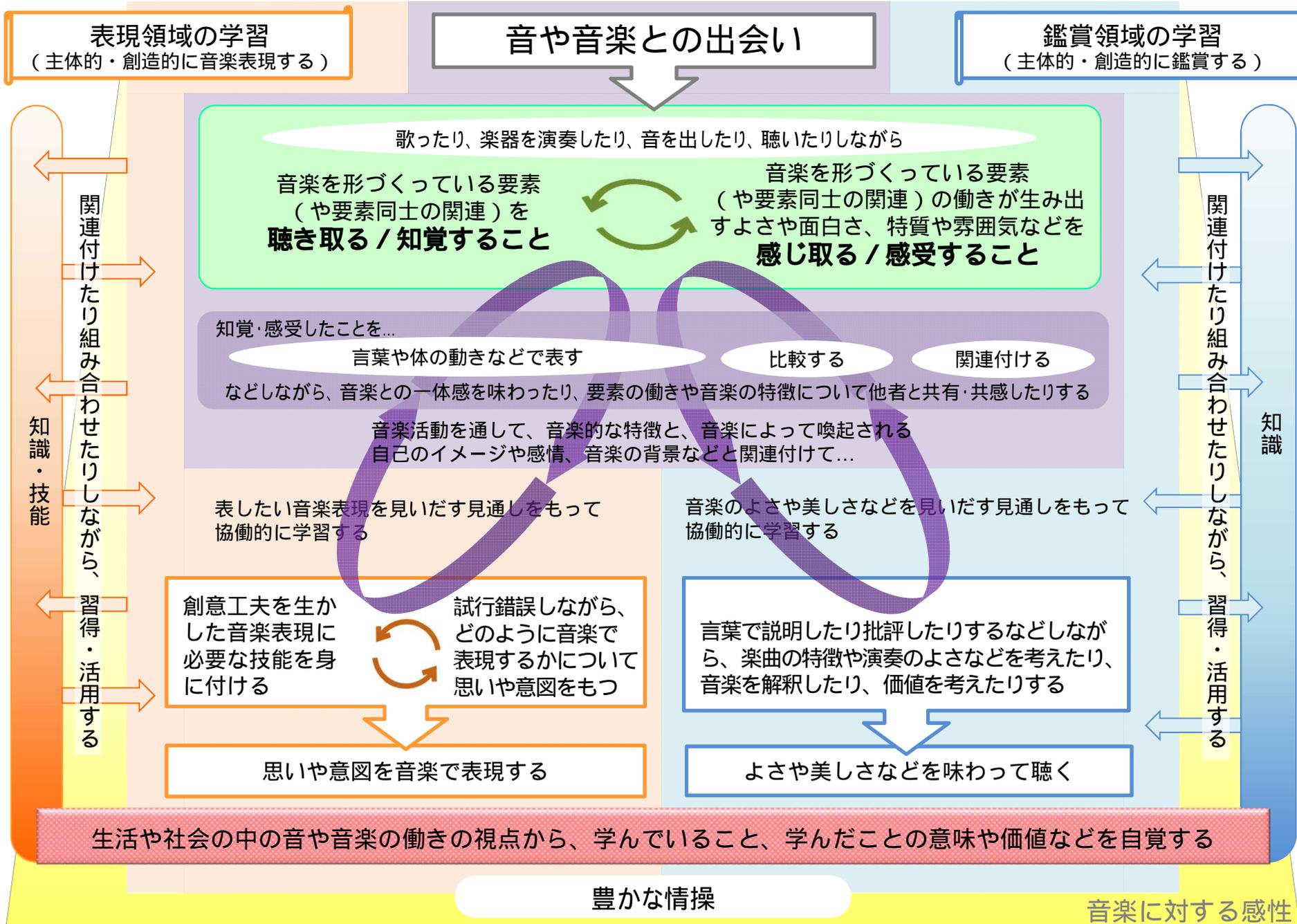
曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

音楽表現を工夫したり、楽曲や演奏のよさなどを見いだしたりしながら音楽を味わって聴いたりする力を育てる。

音楽活動の楽しさを味わい、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性をはぐくむとともに、豊かな情操を養う。

【幼児教育】（ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿のうち、特に関係のあるものを記述）

・身近な事象に積極的に関わり、物の性質や仕組み等を感じ取ったり気付いたりする中で、思い巡らし予想したり、工夫したりなど多様な関わりを楽しむようになるとともに、友達などの様々な考えに触れる中で、自ら判断しようとして考え直したりなどして、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。（思考力の芽生え）
・みずみずしい感性を基に、生活の中で心動かす出来事に触れ、感じたことや思い巡らしたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりして、表現する喜びを味わい、意欲が高まるようになる。（豊かな感性と表現）



	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
高等学校 芸術 (美術)	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について実感的に理解を深めること など 感性や美的感覚，造形感覚を働かせて，材料や用具，表現方法を生かして，創造的に表すこと など 	<ul style="list-style-type: none"> 感性や美的感覚，想像力を働かせて，造形的な視点で対象や事象を捉え，造形的なよさや美しさ、意図と表現の工夫などについて考え、主題を生成し、創造的な表現の構想を練ること など 感性や美的感覚，想像力を働かせて，造形的な視点で対象や事象を捉え，造形的なよさや美しさ、意図と表現の工夫などについて考え、美術や美術文化などについて自分の見方や感じ方を深め、価値意識を持って美術を捉えること など 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な対象や事象からよさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る感性 美術の創造活動の喜び 芸術としての美術の創造活動に主体的に取り組む態度 生涯にわたり美術を愛好する心情 形や色彩などによるコミュニケーションを通して、生活や社会と主体的に関わる態度 美術文化を尊重する態度 美しいものや優れたものに接して感動する，情感豊かな心としての情操 など
高等学校 美術科	<ul style="list-style-type: none"> 美術に関する専門的な知識及び創造的な技能 など 	<ul style="list-style-type: none"> 感性や美的直感力，想像力を豊かに働かせ，個性豊かな発想や構想をしたり，美術作品や文化財などについて批評する能力を高めたりして，地域や社会全般にわたる芸術文化の発展について考え，創造すること など 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な対象・事象からよさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る感性 美術の専門的な学習に主体的に取り組む態度 美術文化の発展と創造に寄与する態度 美しいものや優れたものに接して感動する，情感豊かな心としての情操 など

図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）において 育成を目指す資質・能力の整理

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
高等学校 芸術 (工芸)	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える<u>造形的な視点</u>について実感的に理解を深めること など 感性や美的感覚，造形感覚を働かせて，材料や用具，表現方法を生かして，創造的に表すこと など 	<ul style="list-style-type: none"> 感性や美的感覚，想像力を働かせて，<u>造形的な視点</u>で対象や事象を捉え，造形的なよさや美しさ、意図と表現の工夫などについて考え、心豊かに発想し創造的な表現の構想を練ること など 感性や美的感覚，想像力を働かせて，<u>造形的な視点</u>で対象や事象を捉え，造形的なよさや美しさ、意図と表現の工夫などについて考え、工芸や工芸の伝統と文化などについて自分の見方や感じ方を深め、価値意識を持って工芸を捉えること など 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な対象や事象からよさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る感性 工芸の創造活動の喜び 芸術としての工芸の創造活動に主体的に取り組む態度 生涯にわたり工芸を愛好する心情 <u>形や色彩</u>などによるコミュニケーションを通して、生活や社会と主体的に関わる態度 工芸の伝統と文化を尊重する態度 美しいものや優れたものに接して感動する，情感豊かな心としての情操 など

下線部は、表現及び鑑賞の活動の支えとなる指導内容

図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）において 育成を目指す資質・能力の整理

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
中学校 美術	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える<u>造形的な視点</u>について実感的に理解を深めること など 感性や造形感覚を働かせて、材料や用具を生かし、表現方法を工夫して、創造的に表すこと など 	<ul style="list-style-type: none"> 感性や想像力を働かせて、<u>造形的な視点</u>で対象や事象を捉え、造形的なよさや美しさ、意図と表現の工夫などについて考え、豊かに発想し、創造的な表現の構想を練ること など 感性や想像力を働かせて、<u>造形的な視点</u>で対象や事象を捉え、造形的なよさや美しさ、意図と表現の工夫などについて考え、美術や美術文化などについて自分の見方や感じ方を深め、味わうこと など 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な対象や事象からよさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る感性 美術の創造活動の喜び 美術の創造活動に主体的に取り組む態度 美術を愛好する心情 <u>形や色彩</u>などによるコミュニケーションを通して、生活や社会と主体的に関わる態度 美術文化の継承と創造への関心 美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心としての情操 など

下線部は、現行の学習指導要領に示している（共通事項）と関連する箇所

図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）において 育成を目指す資質・能力の整理

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
小学校 図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える<u>形や色</u>などの造形的な視点について理解すること など 感性を働かせたり経験を生かしたりしながら、表したいことに合わせて<u>材料</u>や用具を使い、表し方を工夫するなどの創造的な技能を身に付けること など 	<ul style="list-style-type: none"> 感性や想像力を働かせて、<u>形や色</u>などの造形的な視点で対象や事象を捉え、造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方などについて考え、創造的に発想や構想する力 など 感性や想像力を働かせて、<u>形や色</u>などの造形的な視点で対象や事象を捉え、造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方などについて考え、自分たちの作品や美術作品などについての自分の見方や感じ方を深め、味わう力 など 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な対象や事象を心に感じ取る感性 感性を働かせながら味わう、つくりだす喜び 造形的な創造活動に主体的に取り組む態度 <u>形や色</u>などにより、生活を楽しく心豊かにする態度 <u>形や色</u>などによるコミュニケーションを通して、生活や社会と主体的に関わる態度 美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心としての情操 など

下線部は、現行の学習指導要領に示している（共通事項）と関連する箇所

【高等学校】芸術科(美術)

造形的な見方・考え方を働かせて、美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

対象や事象を捉える造形的な視点について実感的に理解を深めるとともに、表現方法を生かし、創造的に表すことができるようにする。

造形的なよさや美しさ、意図と表現の工夫などについて考え、主題を生成し創造的な表現の構想を練ったり、自分の見方や感じ方を深め、価値意識を持って美術を捉えたりする力を育てる。

芸術としての美術の創造活動の喜びを味わい、生涯にわたり美術を愛好する心情をはぐくみ、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造する態度を養う。

【高等学校】芸術科(工芸)

造形的な見方・考え方を働かせて、工芸の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

対象や事象を捉える造形的な視点について実感的に理解を深めるとともに、表現方法を生かし、創造的に表すことができるようにする。

造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫などについて考え、心豊かに発想し創造的な表現の構想を練ったり、自分の見方や感じ方を深め、価値意識を持って工芸を捉えたりする力を育てる。

芸術としての工芸の創造活動の喜びを味わい、生涯にわたり工芸を愛好する心情をはぐくみ、感性を高め、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。

【中学校】美術科

造形的な見方・考え方を働かせて、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

対象や事象を捉える造形的な視点について実感的に理解するとともに、表現方法を工夫し、創造的に表すことができるようにする。

造形的なよさや美しさ、意図と表現の工夫などについて考え、豊かに発想し創造的な表現の構想を練ったり、自分の見方や感じ方を深め、味わったりする力を育てる。

美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情をはぐくみ、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造する態度と豊かな情操を養う。

【小学校】図画工作科

造形的な見方・考え方を働かせて、表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

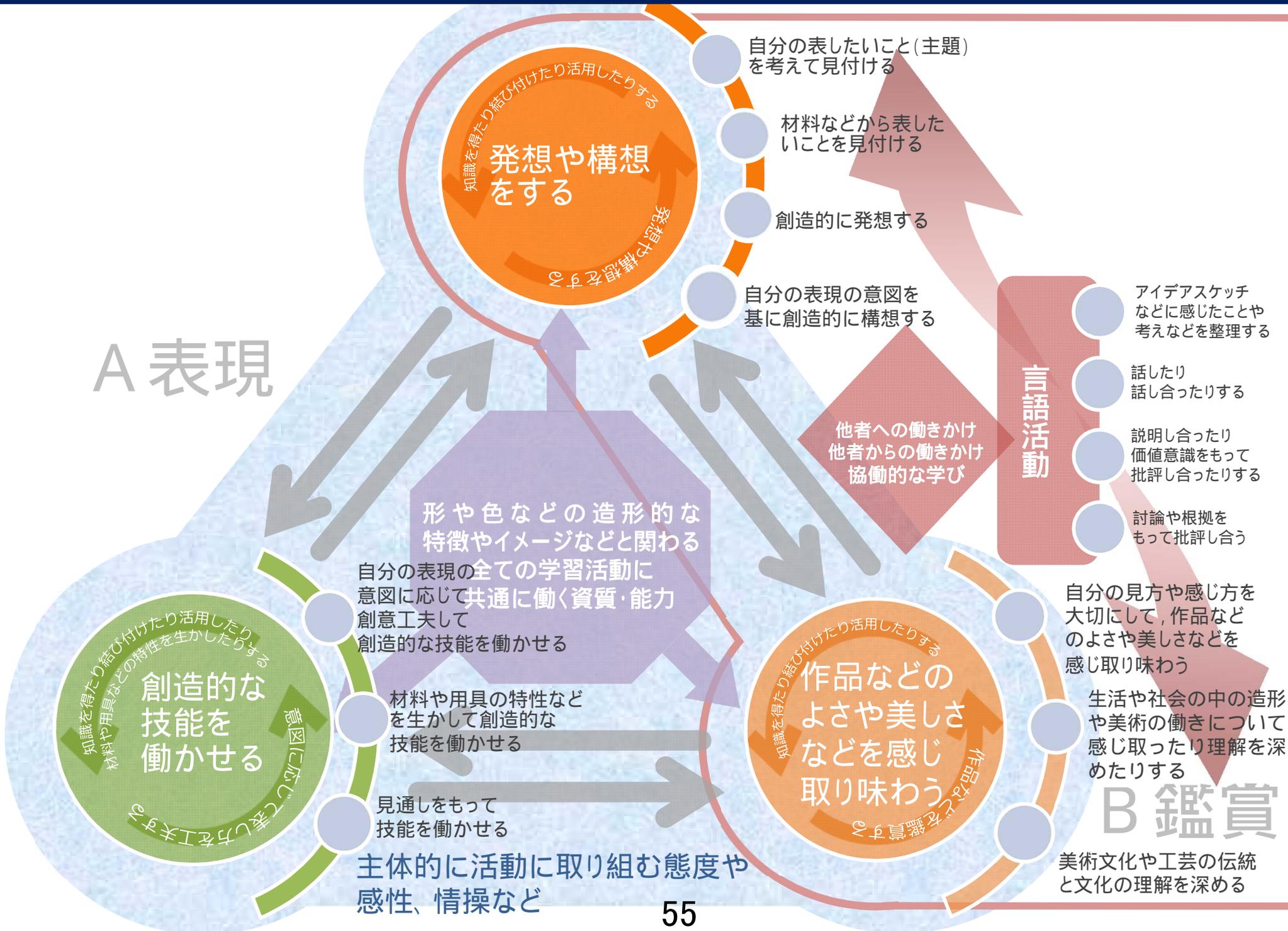
対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫する創造的な技能を身に付けるようにする。

造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方などについて考え、創造的に発想や構想し、自分の見方や感じ方を深め、味わう力を育てる。

つくりだす喜びを味わうとともに、感性をはぐくみ、楽しく豊かな生活を創造する態度と豊かな情操を養う。

【幼稚園】（ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿のうち、特に関係のあるものを記述）

身近な事象に積極的に関わり、物の性質や仕組み等を感じ取ったり気付いたりする中で、思い巡らし予想したり、工夫したりなど多様な関わりを楽しむようになるとともに、友達などの様々な考えに触れる中で、自ら判断しようとして考え直したりなどして、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。（思考力の芽生え）
みずみずしい感性を基に、生活の中で心動かす出来事に触れ、感じたことや思い巡らしたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりして、表現する喜びを味わい、意欲が高まるようになる。（豊かな感性と表現）

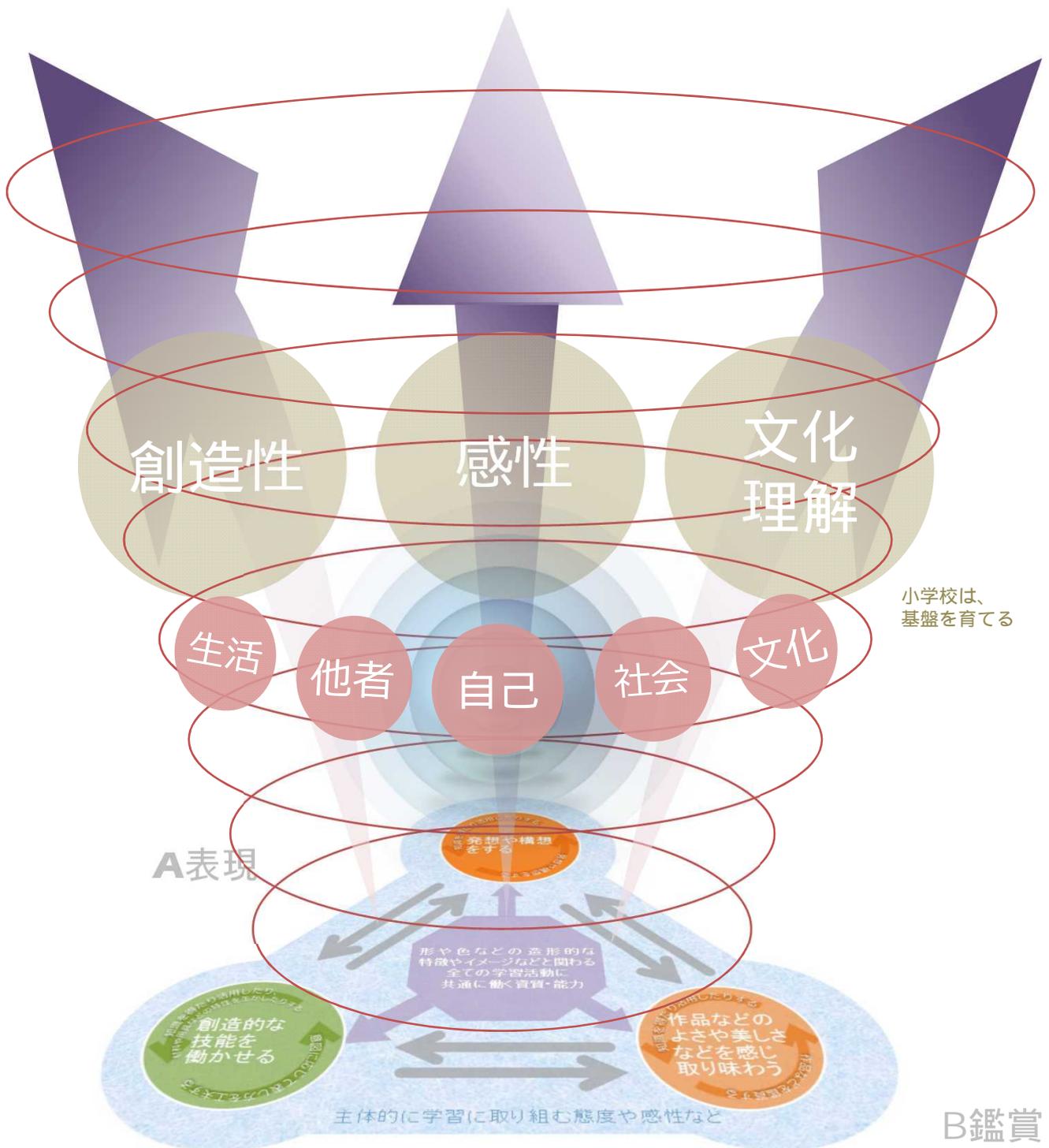


形や色 材料などを操作したり用いたりして思考 判断する

形や色、イメージなどを基に言葉を用いて思考・判断する

形や色、イメージなどの視点をもち、
生活や社会と豊かに関わる資質・能力の育成

豊かな情操



芸術科（書道）において育成を目指す資質・能力の整理

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
高等学校 芸術 （書道）	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>書を構成する要素とその表現効果の視点から</u>，表現方法，形式，書表現の多様性などについて理解したり，生活や社会の中での文字や書の働き，書の伝統と文化について書の特質に即して理解したりすること など ・ 感性を働かせて，意図に基づいた創造的な表現を構想し工夫するために，用具・用材の特徴を理解し，書の伝統に基づく効果的な書表現の技能を身に付けること など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>書のよさや美しさ</u>を感受し，<u>書を構成する要素やそれらが相互に関連する働きの視点</u>で捉えるなどして，感性を働かせながら，自らの思いや意図に基づいて構想し，表現を工夫すること など ・ <u>書のよさや美しさ</u>を感受し，<u>書を構成する要素やそれらが相互に関連する働きの視点</u>で捉え，歴史的背景、生活や社会、諸文化などとの関わりから，文字や書の伝統と文化の意味や価値を考えるなどして、書を味わって深く捉えること など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書の特質に根ざし、よさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る感性 ・ 書の創造的活動の喜び ・ 芸術としての書の創造的活動に主体的に取り組む態度 ・ 生涯にわたり書を愛好する心情 ・ 文字や書の効用を生活や社会の中で生かす態度 ・ 書の伝統と文化を尊重する態度 ・ 美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心としての情操 など

下線部は、表現及び鑑賞の活動の支えとなる指導内容

【高等学校】

書に関する見方・考え方を働かせて、書道の幅広い活動を通して、生活や社会の中での文字と書や、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

書の表現方法や形式、書表現の多様性などについて理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、表現を工夫して表すための効果的な技能を身に付けるようにする。

書のよさや美しさを感じ、自らの意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書を味わって深く捉えたりする力を育てる。

書の創造的活動の喜びを味わい、生涯にわたり書を愛好する心情をはぐくむとともに、感性を高め、文字や書の効用を生活や社会の中で生かし、芸術としての書を通して生活を心豊かにする態度を養う。

(国語科(必履修科目))

「現代の国語」(仮称)

・書写能力を実社会・実生活に生かすこと

「言語文化」(仮称)

・古典の作品と書体等との関わりから多様な文字文化への理解を深めること

【中学校】

(国語科(書写))

- ・文字を正しく整えて速く書くことができる。
- ・書写能力を社会生活に生かすとともに、文字文化について理解することができる。

【小学校】

(国語科(書写))

- ・文字を正しく整えて書くことができる。
- ・書写能力を学習活動や日常生活に生かすとともに、手書きの意義や文字の由来について理解することができる。

【幼児教育】 (幼児期の終わりまでに育ってほしい姿のうち、特に関係のあるものを記述)

- ・身近な事象に積極的に関わり、物の性質や仕組み等を感じ取ったり気付いたりする中で、思い巡らし予想したり、工夫したりなど多様な関わりを楽しむようになるとともに、友達などの様々な考えに触れる中で、自ら判断しようとして考え直したりなどして、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。(思考力の芽生え)
- ・遊びや生活の中で、数量などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、必要感からこれらを活用することを通して、数量・図形、文字等への関心・感覚が一層高まるようになる。(数量・図形、文字等への関心・感覚)
- ・言葉を通して先生や友達と心を通わせ、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付けるとともに、思い巡らしたりしたことなどを言葉で表現することを通して、言葉による表現を楽しむようになる。(言葉による伝え合い)
- ・みずみずしい感性を基に、生活の中で心動かす出来事に触れ、感じたことや思い巡らしたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりして、表現する喜びを味わい、意欲が高まるようになる。(豊かな感性と表現)

